The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | パルケエスパーニャのキャラクターミュージカル『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』のエンターテインメント性と文化的意義について |
| Author(s) | 岡本, 淳子 |
| Citation | Estudios Hispánicos. 2025, 49, p. 31-46 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/101361 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

（研究ノート）

# パルケエスパーニャのキャラクターミュージカル『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』のエンターテインメント性と文化的意義について

岡　本　淳　子

## 1.　はじめに

志摩スペイン村のテーマパークであるパルケエスパーニャにて 2020 年 2 月初演のキャラクターミュージカル『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』が 5 年間のロングランの後、2024 月 12 月 1 日に千秋楽を迎えた。

パルケエスパーニャはスペイン文化に特化したテーマパークであり、パーク内にはジェットコースターや幼児も楽しめるアトラクションなどがあるが、「ピレネー」、「グランモンセラー」、「スプラッシュモンセラー」、「トマティーナ」、「ガウディカルーセル」、「アルカサルの戦い” アデランテ”」、「フィエスタトレイン」などその名前にもスペインが意識されている。また、ハビエル城博物館は公式ホームページによれば、「日本に初めてキリスト教を伝道したことで知られる宣教師フランシスコ・ザビエルの生家をモチーフにしたもの。実物と同じサイズで精巧に造られた、歴史的にも意味のある建物です。また、館内では約 12000 年にもわたるスペインの歴史や文化を、貴重な資料や映像などを使ってわかりやすく解説しています。」とあり、歴史好きにはたまらない資料館になっている。加えて、スペイン北部パンプローナにある古い建物をモチーフにした多目的ホールのエンバシーホールや、アンダルシアの白い家々を見ることができるサンタクルス通り、コロンブスの塔がそびえるコロンブス広場、そしてマヨール広場などがあり、現地スペインに比べれば小規模ではあるものの十分にスペイン気分が味わえるテーマパークなのである。スペイン文化に特化したコンセプト作りは、パルケエスパーニャを、来場者がアトラクションを楽しみながら、スペインという国、歴史・文化についての知識を得ることのできる場にしている。

パルケエスパーニャに数あるアトラクションおよび催し物の中でもスペイン文化を様々な角度から楽しく紹介しているのがキャラクターミュージカル

『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』である。本稿ではこのキャラクターミュージカルの構成、演出、舞台装置、音楽、振付や観客受容に焦点をあてて分析し、本ミュージカルのエンターテインメント性と文化的意義について考察することを目的とする。

## 2. 『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』の概要

本キャラクターミュージカルは園内の「コロシアム」で 1 日 2 回上演される約 25 分のショーである。「コロシアム」は 1500 名収容可能な半円形の野外劇場でローマ劇場を意識していると思われる。スペインがローマ帝国の属州であった時にローマ劇場がいくつも建設されたことを考えれば、半円形劇場もスペインらしいということになるであろう。入場は無料で自由席であり、野外劇場ではあるが屋根があるため雨天決行である。

本ミュージカルは先述したように 5 年間続いた。株式会社志摩スペイン村営業企画部広報宣伝担当に述べ上演回数を尋ねたところ、以下の回答があった。

> 正確な回数は不明、下記の期間上演。（台風、大雨、強風などの理由で臨時閉園あり）
> 【エンターテイメント上演期間】
> ・2020 年 2 月 8 日～ 11 月 30 日
> （2020 年 3 月 2 日～ 6 月 4 日の期間、コロナ対策のため臨時休園）
> ・2021 年 2 月 13 日～ 11 月 30 日
> ・2022 年 2 月 11 日～ 11 月 30 日
> ・2023 年 2 月 11 日～ 11 月 30 日
> ・2024 年 2 月 10 日～ 12 月 1 日

正確な上演回数は不明であるが、膨大な数であることは間違いなく 5 年間のロングランは称賛に値する[1]。

1　開園から 2020 年の『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』の初演までのキャラクターショーは以下のとおりである。（開始月…2, 3 月、終了月…11, 12 月）1994 年から『ドンキホーテのフェリアマヒカ』、1996 年から『ドンキホーテのダンキー！ファンキー！ドンキー！』、1999 年から『ドンキホーテのゴーゴー！！アドベンチャー』、2002 年から『ドンキホーテのバンド de ゴー！！』、2005 年から『アレハンドロの真実の勇気』、2008 年から『チョッキーとドリームステッキ』、2011 年から『ドンキホーテとみんなの大時計』、2016 年から『ドンキホーテのアー・ベー・セー・デー・エスパーニャ！』（株式会社志摩スペイン村営業企画部広報宣伝担当提供の情報）。5 年間のロングランは『ドンキホーテとみんなの大時計』のみである。

出演者は志摩スペイン村のオフィシャルキャラクターの7名、男性2人と女性4人のダンサーの計13名で構成される。「パティオ デル カント」（Patio del canto）は「歌の中庭」という意味であり、ダルシネアの中庭パティオで総勢13名の歌と踊りが繰り広げられる。パティオ祭りが始まりダルシネアの個人宅（Casa Dulcinea）のパティオが一年ぶりに秘密の扉を開く、つまり一般公開されるという設定である。ダルシネアの「秘密の花園」には12ヶ月の誕生花が咲き乱れており、各月の誕生花や花言葉などが歌とダンスで紹介される。歌や台詞はすべて録音であり、本来のミュージカルのように生演奏・生歌というわけではないが、振りや踊りのタイミングが揃っており、かなりの練習を積んだであろうことが推測される。

## 3. キャラクターたち

志摩スペイン村のオフィシャルキャラクターである7名を確認しておこう。キャラクターたちのリーダー、ドンキホーテ、通称ドンキーは公式サイトによれば、「ドンキホーテ村の領主で、仲間のためならどんな困難にも立ち向かってゆく愛と勇気を持った騎士」とのことであり、犬をモチーフとしたキャラクターである。そして、ドンキホーテの思い姫ダルシネア、通称ダルはガート村（Gato ＝猫から来ていると思われる）の出身で、白猫をモチーフにしている。そしてサンチョパンサ、通称サンチョはドンキーの家来で、ハリネズミと小熊をモチーフにしているらしく、ずんぐりむっくりしている。上記三名は17世紀に書かれたミゲル・デ・セルバンテスの小説『ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』に登場する3名を基にしていることは明らかである。ダルシネアはスペイン語ではDulcineaであり、スペイン語読みでは「ドゥルシネア」となるところだが、愛称にしたときの「ドゥル」が日本人には発音しにくいという理由でダルシネアとしたのかもしれない。

小説『ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』の登場人物にちなんだ上記3名に加えて、ウサギをモチーフにしたチョッキー、カエルをモチーフにしたフリオ、牛をモチーフにしたトロ（Toro ＝闘牛）、そして狼（Lobo）をモチーフにしたローボ村の領主アレハンドロがいる。

それぞれの個性についてはミュージカルの楽曲の部分で触れるとして、舞台で7名がバランスよく並ぶために身長差が工夫されていることを指摘したい。決めのポーズが何度かあり、座長の役目を担わされていると思われるダルを中心に7名がきれいなV字を作るように並ぶのだが(写真1)、これはまさに各キャ

ラクターの身長差が計算されているからである。ミュージカル作品においては舞台上の人物の配置が創り出す美的バランスも大事な要素である。

（写真 1）左からドンキー、アレハンドロ、サンチョ、ダル、チョッキー、フリオ、トロ

別の決めのポーズを見てみよう。こちらは細身 2 名とふっくらしている 2 名が左右対称になっており、この場合もバランスの良い構図になっている（写真 2）。

（写真 2）全員集合

## 4. スペインの伝統文化の紹介

### 4.1 パティオ祭り

『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』の舞台は先述したようにパティオ祭りである。毎年5月にスペインのコルドバではパティオ祭り（Fiesta de los patios）が開催され、スペイン国内外から多くの観光客が訪れる。祭りの期間中は個人宅の中庭（patio）が一般公開され、コンテストにエントリーしたパティオがその美しさを競い合う。本ミュージカルの舞台はダルの個人宅のパティオであり、舞台美術を担当した伊藤雅子[2]によりコルドバのパティオさながらの中庭が再現されている（写真2）。本ミュージカルの一曲目は＜ダルシネアの秘密の花園＞というタイトルで、次の歌詞で始まる。

ねえ　みんなが待ちわびた　その日が来たのね
そう　あれから一年　時が流れた春夏秋冬
そしてまた春が来て　今日がその時
パティオ祭り　閉ざされた扉の鍵が　今開く
（『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』歌詞カードより）

こうして、花が咲き誇る鮮やかな舞台美術と色とりどりの衣装を身に着けて歌い踊るキャラクターとダンサーが観客をエンターテインメントの世界に引き込んでいく。

このミュージカルのなかでパティオ祭りのコンテストに参加しているのはダルシネアのほかにアレハンドロがいる。彼の誕生月である9月の楽曲＜俺様のパティオが一番＞では、アレハンドロが「パティオ祭りを知ってるかい？／村一番のパティオを決めるコンテスト／代々伝わる我が家の家訓／一番にならなきゃ意味がない」（『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』歌詞カードより）[3]と歌う。この歌詞によりパティオ祭りが単なる祭りではな

2　伊藤は「エドワード・ボンドのリア」（白井晃演出）・「タンゴ冬の終わりに」（行定勲演出）・「オールドリフレイン」（渡辺えり演出）・「サロメ」（宮本亞門演出）・「真田十勇士」（宮田慶子演出）・「反応工程」（千葉哲也演出）・「友達」（加藤拓也演出）・「ジュリアス・シーザー」（森新太郎演出）・「黒蜥蜴」（デビッド・ルボー演出）・「ケンジトシ」（栗山民也演出）など多くの作品の舞台美術を手掛けている。（JATDT 舞台美術作品データ美術データベースより）

3　本稿における歌詞の引用はすべて、CD『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』の歌詞カードによる。独立引用にはそれを明記するが本文中で引用する際は煩雑になるため、以降は引用元を省略する。

く、パティオの美しさを競い合うコンテストであることも紹介されている。続く歌詞は以下のようになっている。

朝起きたら　まずは水やり
ひとつひとつの花に話しかけるのさ
どうか今年も村一番の
パティオに選ばれますように
高いところも忘れちゃだめさ
ご先祖様が考え出したスタイル
枯れた葉っぱは　はらってあげよう
色鮮やかに咲きますように
（『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』歌詞カードより）

この歌詞に合わせるかのように舞台奥ではダンサーたちが長い柄のついたじょうろを使って花の手入れをしている（写真 3）。コルドバのパティオの水やりの様子が正確に再現されているのである。

華やかな舞台で繰り広げられるエンターテインメントを楽しみながら、スペイン南部のアンダルシア地方特有の白壁の家と中庭、そして有名なコルドバのパティオ祭りという伝統文化についても知ることのできるミュージカルになっている。

（写真 3）高い場所にある鉢への水やり

### 4.2　フラメンコ舞踊とひまわり

ダルシネアの家のパティオ「秘密の花園」の門が開くと、そこには1年12ヶ月の誕生花が咲き乱れている。5月生まれのチョッキー、6月生まれのフリオ、7月生まれのサンチョの歌と踊りが続き、8月生まれのダルシネアの歌の時にフラメンコが踊られる。曲調は本場のフラメンコとは少し違うがフラメンコギターによる伴奏の4拍子系のタンゴの部類に入るだろう。「アンダルシアの恋人たち／フラメンコ／時がたつのも忘れて／ただ二人踊るの」と歌詞にあるとおり、足を踏み鳴らすサパティアードあり、手拍子をするパルマありのフラメンコを情熱的に踊る。パルケエスパーニャ内には有料で見ることができるスペイン人ダンサーによるフラメンコショーもあるが、無料で大勢の人が見ることのできるキャラクターミュージカルでもスペイン文化の一要素としてフラメンコが用いられている。

写真2と3で確認できるように女性ダンサーはフラメンコの衣装に身を包み、髪形も女性フラメンコダンサーの定番「モニョ」（moño）にしている。男女問わずダンサーの衣装には赤と黄色が配色されているが、数多くある赤そして黄色のうちスペイン国旗とまったく同じ色が使用されており、スペインらしさが強調されている。ダルシネアの衣装も色は異なるものの（濃いピンク）フラメンコ衣装のデザインであり腰にはシージョ（スペイン語ではmantoncillo）を巻いている（写真4）。

（写真4）ひまわりとフラメンコ

8 月の誕生花ひまわり (el girasol) は、「命が生まれる　太陽の花／エル・ヒラソル／どこまでも続くひまわり畑」と歌詞にも入っており、舞台もひまわり畑になる。

満開のひまわり畑とフラメンコ舞踊という二つのアンダルシア的要素を楽しめる楽曲になっている。

### 4.3　闘牛

11 月は牛のキャラクター、トロの出番である。トロとはスペイン語で Toro、つまり雄牛のことであり「闘牛」をも意味する。歌のタイトルは＜紅葉の赤にこころは燃える～闘牛士の歌～＞であり、「燃える山／紅葉のような赤き想い／胸に抱き　愛に焦がれ／俺を見つめる黒い瞳／その瞬間　嵐のような歓声が沸き起こり／勇者の祭りが始まる」とバラード調のメロディーにのせてトロが歌う。トロのバックでは闘牛士（マタドール，matador）の衣装に身を包んだ男性ダンサー 2 人がムレータ（muleta）を持って踊る（写真 5）。「頼るもの　何もない／勝利は 自分の手で 勝ち取るもの」とキャラクターの中で一番強そうなトロが闘牛士の不安な胸の内を切なく歌い上げる。最後は曲調がマンボに変わり、「マンボでダンス　そしてロマンス／アリーバ！オーレ！でマンボ！（ウ～！）」の（ウ～！）で決めのポーズを取る。アリーバ（Arriba）もオーレ（（Olé）も闘牛士への賞賛や激励に使われる掛け声であり、この楽曲はスペインの伝統文化の一つである闘牛を、闘牛士の心情、衣装、ムレータ、掛け声、ダンサーによる闘牛士の牛さばきなども含めて紹介している。

（写真 5）マタドールたち

### 4.4　ピニャータ

5 月生まれのキャラクター、チョッキーが歌う＜チョッキーのバースデイパーティ＞には、「ゲームしようよ／ピニャータ (Piñata)　さあ目隠しをして！／みごとに割れたら　たくさんのお菓子　もらえるよ！」という歌詞がある。ピニャータは、白水社の現代スペイン語辞典によると「くす玉〔割り〕〖中にお菓子が入っていて、目隠しした人が棒で叩き割る遊び。カーニバルの最初の日曜日 domingo de piñata の仮装舞踏で行われる〗」とある。

現在ではピニャータはメキシコの伝統というイメージが強いが、中国に起源をもち、マルコ・ポーロが中国からイタリアに持ち帰り、その後ヨーロッパ全体に広がった後、スペイン人征服者によってメキシコにもたらされたと言う（Melara 2023）。現在のメキシコのピニャータ（写真 6）によく似た可動式のピニャータが舞台に登場する（写真 7）と皆が棒を持って叩き始める。

日本でもくす玉割りというよく似た遊びがあり、参加しても見ていても楽しい。「パティオ デル カント」のピニャータはどちらかと言えば日本のくす玉に近く、出てくるのはお菓子ではなく、「¡FELIZ CUMPLEAÑOS!（お誕生日おめでとう！）」の垂れ幕である（写真 8）。誕生日を祝うこのスペイン語は歌詞にも何度か登場し、聴覚と視覚の両方で観客の印象に残るようになっている。

（写真 6）

（写真 7）

（写真 8）

## 5.　歌詞に使われるスペイン語

本ミュージカルにおけるスペインの伝統文化について考察した第 4 章でもすでにいくつか紹介したが、歌詞には少なからずスペイン語が使われている。

オープニング曲＜ダルシネアの秘密の花園＞では、“La fiesta de los patios” という歌詞があり、日本語では「パティオ（中庭）祭り」という意味になるが、CD の歌詞カードに書かれているのはスペイン語のみで、日本語訳はない。また、誕生花と花言葉を紹介する歌詞にもスペイン語が使用されている。

1 月 Enero カーネーション 「飾らないこころ」
2 月 Febrero フリージア 「あどけない純情」
3 月 Marzo チューリップ 「思いやりと愛情」
4 月 Abril さくら 「優美な女性」
（『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』歌詞カードより）

1 月から 4 月までのスペイン語が歌詞に入っている。ミュージカルに魅力を感じた観客、そして CD を買った人たちにスペイン語に興味をもってもらおうという気持ちが歌詞そして歌詞カードから感じられる。

7 月生まれのサンチョは夏休みについて歌う。後半の歌詞を見てみよう。

照りつける太陽　眩しい青空
打ち寄せる波　カモメたちの歌
チリンギートで冷たいドリンク
何もしないで　海を眺めてる
それが Vacaciones en España　スペインの夏休みさ
どんな時でも　ゆったりのんびり
それが Vacaciones en España　スペインの夏休みさ
ホントは何かするのが　面倒くさいだけ
（『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』歌詞カードより）

注目したいのは「チリンギート」という語である。歌を聞いた多くの人が「チリンギート」とは何かと疑問に思うであろう。チリンギート (Chiringuito) はいわゆる海の家、浜辺などに設置される飲食店である。スペインをよく知る人なら「チリンギート」と聞いてすぐにビーチを思い浮かべるであろう。粋な言葉の選択である。そして、「それが Vacaciones en España」の部分は「そ～れがば～かしおね～せんえすぱ～にゃ」と聞こえるため、何と言っているのかわからずに思わず歌詞を調べたくなる人が少なからずいるであろう。歌を

聞いた人たちをスペイン語の学習に誘う効果もあるのではないだろうか。

ドンキホーテの生まれた 10 月はハロウィンがテーマとなり、仮装した出演者たちがラッパと太鼓で始まるマーチ曲に合わせて行進してくる。「Trick or treat　Trick or treat ／スペイン語では Truco o trato ／ Truco o trato Truco o trato ／お菓子くれなきゃいらずらしちゃうぞ」という歌詞で始まる。日本では近年急速にハロウィンが 10 月の行事として定着し、“Trick or treat” という語の周知度も上がったように思うが、スペインでもハロウィンは伝統的な行事ではなく比較的最近のものである。“Truco o trato” も “Trick or treat” という英語をスペイン語に直訳したものであり、年齢が高い世代にはなじみのない言葉であろう。そのようなスペイン語が歌詞に入っていることは時代を反映していて興味深い。

12 月は「神様の誕生月、みんなでお祝いしましょう」というダルシネアの声掛けで皆で“Feliz Navidad”を歌う。これはプエルトリコ出身のホセ・フェリシアーノ (José Feliciano) 作詞・作曲のクリスマスソングである。オリジナル版どおりにスペイン語と英語で歌われるが、簡単なフレーズで繰り返しが多いため、聞いているうちに覚えてしまい思わず口ずさんでしまう楽曲である。

以上見てきたように本ミュージカルには様々なスペイン語の単語や言い回しが使われており、それらが歌詞カードにカタカナで書かれるのではなくスペイン語のままで記されている。

## 6. 「パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～」のエンターテインメント性

4 章と 5 章で「パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～」がスペイン文化やスペイン語の学びの場を提供していることを明らかにした。しかしながら本公演はあくまでもテーマパークのエンターテインメントなのであり、観客がいかに楽しめるかが最重要である。本章では本作のエンターテインメントとしてのクオリティについて考察する。

### 6.1　楽曲の多様性とダンスの完成度

ミュージカルにおいて音楽は重要な役割を果たす。舞台で披露される 11 の楽曲は先に紹介したホセ・フェリシアーノの 1 曲を除きすべて作詞は菅野こうめい、作曲はかみむら周平によるものである。どの曲も乗りの良い覚えやすいメロディーであることは共通しているのだが驚くべきはすべてジャンルが異なるということである。ポップス、ジャズ、ロック、ブルース、マンボ、

マーチ、フラメンコと楽曲が多様であるため、曲ごとの雰囲気ががらりと変わり変化が楽しめる。そして各楽曲はそれを歌うキャラクターの個性ともうまくマッチしているのである。全員で踊る 1 月から 4 月までと 12 月、そして誕生月のキャラクターが主役となって歌い踊る 5 月から 11 月までと構成にも変化があるため決して単調になっていない。

次に指摘したいのは振付のユニークさとダンサーの高いレベルである。専門ではないため振付について詳しく述べることはできないが、曲調と歌詞に合った振付が考えられており、おそらく歌詞を理解できない小さな子どもでも歌の内容が理解できるのではないかと思う。身体能力が高くないと踊りこなせない振付も少なくなく、ダンサーのレベルが非常に高いことにも言及しなければならない。フラメンコについては先述したが、後述する 6 月のフリオの時にはタップダンスが披露される。とりわけ 9 月の＜俺様のパティオが一番＞の時の振付がユニークであると同時にダンサーにとっては挑戦的なものになっている。アレハンドロは「9 月生まれは完璧主義者」、「ひとつの妥協も許さない！」と自身のパティオの花の世話に関して歌っているのだが、その言葉を女性ダンサー 3 人と男性ダンサー 1 人が踊りで表現しているかのようである。彼らは身体全体を大きく力一杯に使って、「完璧」に切れのある「ひとつの妥協も許さない」踊りを披露するのである。また、アレハンドロが魔法使いであることが関係しているかどうかはわからないが、ダンサーたちが上半身を映画『マトリックス』のように後ろに大きくそらす人間離れした動きの振付もある。アップテンポの曲に乗って身体を大きく動かす踊りは相当な訓練を積まなければできるものではない。

ダンサーたちほど激しい動きはしないもののキャラクターたちの踊りも見事である。サンチョ、アレハンドロ、トロにいたってはかなり足が短いにもかかわらず絶妙にステップを踏み、切れもある。アレハンドロは魔法使いであるために先の尖った大きな靴を履いているのだが、その足さばきは素晴らしい。

さらに、本ミュージカルには多地点演技という演出がなされていることを述べておく必要がある。メインのキャラクターたちが舞台中央で歌い踊る間、周りにいるダンサーや他のキャラクターたちが下手や上手、様々な場所で演技をするのである。台詞を発することはないものの、あるいは台詞がないからこそ、脇役でありながらも主役と変わらぬ熱の込もった演技をしている。本公演にはリピーターが多いと聞くが、おそらく多地点演技という演出により毎回異なる部分に注目してみることで新しい発見があることもその理由の

一つであろう。

舞台ではフォーメーションの移動がかなり頻繁にある。13 名のダンサーたちが踊りながら、演技しながら難なく移動するには相応の練習と互いへの信頼、そして各自の責任感が必須となるであろう。

### 6.2　他のミュージカル作品へのオマージュという遊び

公式ホームページのキャラクター大図鑑によると 6 月生まれのカエルのフリオは吟遊詩人らしい。フリオの歌は「スペインでは雨は主に平野に降る」という歌詞で始まる。スペインでは雨は主に北の山間部で降り、平野は一般的に乾いているため､その歌詞を聞いて違和感を覚えた。しかしながら､それがミュージカル『マイ・フェア・レディ』でイライザがひどい訛りを直すために歌った “The rain in Spain stays mainly in the plain” の日本訳「スペインでは雨は主に平野に降る」なのではないかと気づき納得がいった。フリオは「まるでミュージカルみたい」と続ける。おそらく『マイ・フェア・レディ』へのオマージュとしての歌詞なのであろう。そして､「Rainy day　石畳たたく雨音／判るかな　僕のときめき／踊ろうよ　ローズガーデン／濡れたってかまわない」と歌ったあと、フリオは傘を持った二人の女性ダンサーとタップダンスを踊る（写真 9）。「濡れたってかまわない」と歌ってタップダンスを踊るこのシーンはジーン・ケリー主演の映画『雨に唄えば』へのオマージュに違いない。さりげなく他のミュージカルにも思いを馳せる仕掛けがしてある楽曲である。

（写真 9）

### 6.3　観客の参加

本ミュージカルでは観客とのインタラクションも重要な要素の一つである。10月の＜ドンキホーテのハロウィン＞の歌が終わると以下のやり取りがある。

ダルシネア　　ねえ、今日が誕生日の子がいるんじゃないかしら。
チョッキー　　そうですね。
フリオ　　ついでにお祝いしちゃいましょうか。
チョッキー　　誰か、今日が、今月がお誕生日の子、手を挙げて！

手を挙げた観客の中から基本的には一人（小さなきょうだい二人という場合もある）が選ばれて舞台に上がる[4]。「おめでとう！　おめでとう！／誕生日イエー！　おめでとう！」という歌と手拍子のなか、選ばれた観客は出演者に囲まれて一緒に簡単な手の振りだけの踊りをする。最後は出演者全員との記念撮影をしてもらえる。子供だけが対象かと思いきや成人男性や女性が選ばれることもある。この一連の場面で歌われるのが次の歌詞である。

毎日どこかで　綺麗な花が咲いている
毎日どこかで　素敵な夢が生まれている
一年 365 日　毎日が誰かの誕生日
花たちが歌う 12 ヶ月の物語
そう　ここはみんなの秘密の花園
（『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』歌詞カードより）

誰にでも誕生日がある。人間だけでなく動物にも誕生日がある。すべての生き物にとって唯一平等なことがあるとすれば、それは誕生日があるということかもしれない。舞台に上がった観客が出演者全員から、そして客席の観客からも手拍子で祝福を受けている姿は会場全体を温かい空気で包み、一体感を生み出す。明日は私の、来月は私の、数か月後は私の誕生日であり、その日は誰にでも必ず来るのである。本公演における出演者と観客とのインタラクションはステージに立つ観客のみならず、観客全員を巻き込んだものとなる。

4　株式会社志摩スペイン村営業企画部広報宣伝担当からの情報によると、観客が舞台に上がる演出は『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』が初めてとのことである。

## 7. おわりに

志摩スペイン村のキャラクターミュージカル『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』を文化的観点とエンターテインメント的観点から分析した。テーマパークの出し物であるからには来場者・観客を楽しませる場であるということが大前提である。キャラクターの個性と多様な楽曲、ダンサーの高いレベル、演出の工夫、他のミュージカルへのオマージュといった遊びによってショーとして完成度の高いものになっている。と同時に、観客が参加する場を設けるだけでなく、本作の「一年 365 日　毎日が誰かの誕生日」、「ここはみんなの秘密の花園」というコンセプト自体が観客全員を巻き込むものであり、観客とのインタラクションに重きを置いた出し物になっている。スペインあるいはスペイン由来の文化の紹介およびスペイン語の学びの場をさりげなく提供している本ミュージカルは、文化紹介とエンターテインメントの融合の成功例であると言える。

## 参考文献

志摩スペイン村－オフィシャルサイト－≪ https://www.parque-net.com/ ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 14 日）

『パティオ デル カント～ダルシネアの秘密の花園～』（2023）[CD] パルケエスパーニャ・プロダクション。

JATDT 舞台美術作品データ美術データベース≪ https://sdda.jatdt.or.jp/archives/4537 ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 10 日）

Melara, Josselin (2023) “Conoce el origen y el significado de las piñatas”, Colegio Hispano Americano ≪https://www.colegiohispanoamericano.edu.mx/post/conoce-el-origen-y-el-significado-de-las-pi%C3%B1atas ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 12 日）

写真 1：志摩スペイン村 Blog ≪ https://www.parque-net.com/blog/?p=6743 ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 11 日）

写真 2：志摩スペイン村公式ホームページ ≪ https://www.parque-net.com/entertainment/patio/ ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 12 日）

写真 3：志摩スペイン村 Blog ≪ https://www.parque-net.com/blog/?tag=%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%A9%E3%82%AF%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%BC&paged=2 ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 12 日）

写真 4：志摩スペイン村 Blog ≪ https://www.parque-net.com/blog/?tag=%E3%82%AD%E3

%83%A3%E3%83%A9%E3%82%AF%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%BC ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 12 日）

写真 5：志摩スペイン村公式ホームページ≪https://www.parque-net.com/entertainment/patio/≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 12 日）

写真 6：Colegio Hispano Americano ≪https://www.colegiohispanoamericano.edu.mx/post/conoce-el-origen-y-el-significado-de-las-pi%C3%B1atas≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 12 日）

写真 7：竹内のぞみさん提供。

写真 8：竹内のぞみさん提供。

写真 9：志摩スペイン村 Blog ≪https://www.parque-net.com/blog/?p=12247 ≫（最終閲覧日：2025 年 2 月 13 日）